

三重県総合文化センター事業計画書の要旨

申請者名	公益財団法人三重県文化振興事業団
管理運営方針	<p>県内文化をリードする役割を果たすため、全県的に事業を展開し、三重県全体の文化振興に邁進してまいりました。過去19年に亘り三重県の指定管理者(受託管理期間含む)として集積した専門性やノウハウは私たちのかけがえのない財産です。これらを最大限に活用するとともに、今後持続的に発展させ、「文化と知的探求の拠点」としての役割を果たします。私たちは、三重県総合計画「みえ県民力ビジョン」及び「三重の文化振興方針」をはじめとした関係法令や県施策を念頭に置き、県民の誰もが文化芸術を享受でき、文化活動に参加・参画できる環境づくりを進めるためにも、下記5点を総合的な基本方針として文化振興を図ってまいります。</p> <p>①文化交流ゾーンを起点とした魅力ある施設運営 ②次世代を担う人材育成の推進 ③安全・安心が実感できる施設 ④高品質なサービス提供による総文ブランドの確立 ⑤公益性と収益性の両立</p>
管理業務に関する計画	<p>過去の管理経験を活かし、以下の基本的な考え方に沿ってお客様に提供するサービスの品質、安全確保を高水準に保ちながら、最も効率よく維持管理を行うことを目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最適な維持管理業務の管理及び監督を行います。 ・施設を清潔に維持し、徹底した省エネ運用等、全職員でコスト削減に努めます。 ・直営施工能力を最大限発揮するとともに、危険箇所の早期発見、早期解決に努めます。 ・文化交流ゾーン関係施設と連携し、一体管理運営方法等を導入します。 ・「危機管理マニュアル」の運用徹底と複数の危機管理訓練により対応力の強化を図ります。 ・個人情報の適切な管理、積極的な情報公開に努めます。 ・人権尊重社会の実現等、県の施策に配慮し、独自の方針・運用ルールを定め、様々な取組を実施します。
運営業務に関する計画	<p>①文化会館事業 「次の20年へ!文化交流ゾーンを牽引し、劇場法時代の理想の劇場像を目指して」 ○劇場法時代の理想の劇場づくり=県民のプラットフォーム 劇場法が求める「実演芸術の振興」では「公演」「普及啓発」「連携」「国際交流」「調査研究」「人材養成」「地域社会づくり」など、多様な劇場機能を提供する事業が定められています。これらの事業は私たちが劇場法制定以前から真摯に取り組んできた事業カテゴリーです。引き続き多様な事業が相互に作用することで、多目的に人が集い、賑わう「県民のプラットフォーム」となる劇場を目指します。</p> <p>○文化交流ゾーンの活性化=中核的拠点機能の発揮と効果的な事業連係 三重県総合博物館の開館を契機に文化交流ゾーンの一層の活性化が求められています。中核的拠点機能では第一に県立施設の重要使命として市町文化施設や多様な文化の担い手のリーディング施設となることを目指します。第二にゾーン全体が求心力を持つことで南北に長い三重県のどこからでも訪れたいゾーンづくりを目指します。効果的な事業連携では新しい発想で各々の施設特性を活かした事業を立案し、足し算にとどまらない掛け算となる連携、一過性に終わらない未来のソフト資産づくりを目指します。</p> <p>②生涯学習センター 「学ぶことは生きること～生涯学習社会実現に向けた新たな20年の提案～」 ○顧客満足から顧客信頼の獲得へ～今こそ「生涯学習」時代の到来～ 団塊世代の大量退職による様々な影響や課題が注目されていますが、生涯学習にとっては学習者の増加という“追い風の時代”の到来といえます。また、先行きが不安な時代にこそ求められる、さまざまなライフスタイル、ライフステージに対応した学習情報や活動の場の提供にも取組みます。 私たちが企画・提案する事業には、10年以上継続実施している人気のシリーズ講座が多くあります。これらに参加される方へは、満足度から信頼度へと評価のベクトルを向上していただけるような事業展開に努めます。“学び”の質と量の安定した提供に加え、新しい価値の創造や提案にも取り組めます。</p> <p>○学びを活かす場の創出～生涯学習社会の実現に向けて～ 生涯学習分野における人口ボーナスが続く今日、学習意欲と行動力のある団塊世代は私たちの主たる顧客となります。しかし、個々の学びを地域や社会に活かす“学びの循環”を起こすまでには至っておらず、生涯学習社会の実現に向けて取り組むべき課題の1つと考えます。 学んで終わりではなく、その後も学習が継続、展開していくような機会・情報の提供に努めます。また、学習者同士の交流や情報交換が活発化するような場づくり・ネットワークづくりにも取り組めます。</p> <p>○学びのトータルコーディネーターとして～文化交流ゾーンにおける学習支援機能を果たす～ 県内市町とのつながりは年々強まり、過去5年間での連携は29市町中、実に27市町(事業連携シェア93%)にのぼります。厚い信頼と、確かな実績を積み上げてきた成果の一端です。また、県立施設(図書館、美術館、博物館、斎宮歴史博物館)、高等教育機関、ミュージアム、文化芸術分野の専門家(演奏家・実演家)との連携関係が拡大し、しかも定期的な協議の場を持つなど大きく進展しています。 各事業での共催や連携、学習相談といった広い分野においてコーディネート力を十分に発揮し、互恵関係の維持と発展を目指します。</p> <p>③男女共同参画センター 「三重に、新しいLIFEを!～自分らしく生きる=男女共同参画社会の実現を目指して～」</p>

○拠点施設の機能を発揮し、三重の男女共同参画をリードします
 私たちはこの20年間、職員の専門性と拠点施設の機能を充実させ、県民や市町、団体・企業等から信頼されるセンターとして実績を積んできました。しかし、男女共同参画という言葉の理解や、男女が平等と感じる人の割合は増えつつあるものの、未だ男女共同参画の推進状況は十分とは言えません。
 私たちは、拠点施設としての機能を発揮し、専門性を活用した先進的取組とネットワーク力を活かし、三重の男女共同参画の取組をリードしていきます。

○専門性を活用したプログラム開発で、社会を変革する事業を展開します
 これまで培った専門性を発揮した事業展開により、先進的な取組をするセンターとして県内外より注目を得ています。人口減少、少子高齢化が進む中、より一層女性の参画拡大・活躍促進に取り組む必要があり、これには、男性の意識改革や、家事・育児参加が不可欠です。
 私たちは、専門性を活用した先進的プログラムを開発し、特に企業等に対し「女性の活躍促進」と「ワーク・ライフ・バランスの実現」に向け、社会を変革する事業を展開していきます。

○コーディネート機能を充実させ、あらゆる分野の男女共同参画を促進します
 あらゆる分野の男女共同参画を推進するために、県、市町、企業、NPO・団体等さまざまな主体とネットワークを構築し、連携して事業を実施してきました。
 私たちは、これまで以上にコーディネート機能を充実させ、男女共同参画を促進します。特に新規層や、若年層・子育て世代等、次世代への意識啓発を強化し、新しい時代のニーズにあった事業を展開します。男女共同参画に関わる団体のみならず、課題に応じてさまざまな団体等と連携・協働していきます

○多彩な“学びと気づき”の機会を提供し、人々のエンパワーメントを支援します
 人々の生き方や働き方が多様化する中、今後ますます女性や男性、あらゆる人々がお互いを対等に尊重し、一人ひとりが輝ける社会の実現が重要です。
 私たちは、あらゆるライフステージに応じて、自分らしい生き方や働き方について、情報交換・交流ができる「人がつどい、つながるセンター」を目指します。情報発信、相談、各種講座への参加等を通じて、学びと気づきを得て、さまざまな人々・機関とつながり、エンパワーメント（力を引き出し、また社会で活躍できるよう、人々をサポートします）

成果目標

業務分類	成果目標内容	単位	H27	H28	H29	H30	H31	募集要項指定成果目標	H22～25年間平均実績
センター全体の運営	総合文化センター来館者数 (県立図書館を除く)	人	710,000	712,000	714,000	716,000	718,000	710,000	713,929
	来館者アンケート満足度 (8項目平均、4段階評価で3以上)	%	88.0	88.0	88.0	88.0	88.0		89.1
貸館業務	総合文化センター施設利用率	%	79.0	79.2	79.4	79.6	79.8	79.0	79.7
	利用者満足度 (4段階評価で4)	%	83.0	83.0	83.0	83.0	83.0		83.5
文化会館事業	文化会館事業参加者満足度 (5段階評価で4以上)	%	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.5
	公演事業入場率	%	82.0	82.0	82.0	82.0	82.0		82.6
	文化会館鑑賞型事業公演収支率	%	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0		92.0
生涯学習センター事業	生涯学習事業受講者満足度 (4段階評価の4)	%	77.0	77.0	77.0	77.0	77.0	77.0	77.5
	生涯学習情報提供システムへのアクセス	件	255,000	256,000	257,000	258,000	259,000		257,709
	アウトリーチ講座実施数	回	65	65	65	65	65		72
男女共同参画センター事業	男女共同参画センター主催事業参加者数	人	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	11,474
	男女共同参画センター事業参加者満足度 (4段階評価で4)	%	81.0	81.0	81.0	81.0	81.0		82.0
	新規事業参加率	%	51.0	51.0	51.0	51.0	51.0		51.1

収支計画

東日本大震災以降の光熱使用料単価の急激な上昇や平成27年10月に予定されている消費税10%への引き上げ等の外的な上昇要因があり、厳しい局面でもありますが、文化振興等の根幹をなす各事業の支出額はキープしつつ、効率的な運営に加え、貸館施設の新設による増収、企業協賛、各種助成金等を含めた自己収入獲得に最大限の努力を怠ることなく、適切な収支のバランスを確保していきます。

組織及び人員

多様な職種構成を図ることと、業務実態にあった変形労働時間制の勤務ローテーションを導入することにより、最少の人員数で弾力的に運用していきます。職員研修では、内部研修、外部研修を効果的に実施するとともに資格等の取得推進も図り、専門的人材を養成していきます。

経営者：1名、総務部（企画広報・施設・組織の管理部門）：13名、施設利用サービスセンター（施設貸出サービス部門）：21名、文化会館（文化事業部門）：13名、生涯学習センター（生涯学習事業部門）：12名、男女共同参画センター（男女共同参画事業部門）：11名 全71名（常勤：63名、非常勤：8名）

収支計画書(千円)	年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
	収入合計	1,146,200	1,155,700	1,160,200	1,162,900	1,164,700	
	内訳	指定管理料	819,000	823,500	823,500	822,400	821,200
		施設利用料金収入	150,500	152,000	153,000	153,500	153,500
		事業収入	84,500	85,500	86,500	87,500	88,500
		その他	92,200	94,700	97,200	99,500	101,500
支出合計	1,141,100	1,156,000	1,159,400	1,164,100	1,169,100		

※ A4版2枚以内としてください。